

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) (西暦)	令和3 2021	年度	②採択期間 (通常A型は5年以内 B型は3年以内)	5 年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A 型
④日本側拠点機関名 (和文)	東京大学大学院農学生命科学研究科					
⑤研究交流課題名 (和文)	インスリン様活性調節を介した健康維持戦略の研究拠点形成					
⑥課題番号	JPJSCCA20210007					
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	東京大学大学院農学生命科学研究科・教授・高橋伸一郎					
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	筑波大学					
	明治大学					
	金沢大学					
	東京工業大学					
	東京薬科大学					
	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター					
	東京大学理学系研究科					
	お茶の水女子大学					

⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リスト に準じてください。重複カ ウントしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2-4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑪に内訳をご記入くださ い。)
拠点機関	2	9	3	14	0	28	0
協力機関・協力研究者	5	8	0	8	0	21	0
合計	7	17	3	22	0	49	0

⑩手引2-4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

⑪「第三国所属の研究者」内訳 (5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)			
所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額 (単位:円)	備考	
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	258,960	
	外国旅費※1	0	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	11,566,204	
	その他経費	1,666,187	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	8,649	
	計	13,500,000	
業務委託手数料	1,350,000	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。	
合計	14,850,000		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
新型コロナウイルスの感染拡大により出張ができない代わりに、新規アミノ酸シグナルの同定や、IRS-1結合タンパク質の機能解析のために必要な実験機材や試薬を購入し、細胞生物学的解析や分子生物学的解析を進めた。		

③ 日本側 の 旅 費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額(単位:千円)		258,960		
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額(単位:千円)	日本→日本以外の渡航	0		
		日本以外→日本の渡航	0		
		日本以外→日本以外の渡航	0		
④ (単位:千円) (千円未満切捨て)	日本又は相手国→日本の渡航	0	(単位:千円) (千円未満切捨て)	日本又は相手国→日本の渡航	0
	日本又は相手国→相手国の渡航	0		日本又は相手国→相手国の渡航	0
	日本又は相手国→第三国の渡航	0		日本又は相手国→第三国の渡航	0
	第三国→日本の渡航	0		第三国→日本の渡航	0
	第三国→相手国の渡航	0		第三国→相手国の渡航	0
	第三国→第三国の渡航	0		第三国→第三国の渡航	0

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤(B型で平成31年度採択課題のみ)中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合 (交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
総額(単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明	
該当なし		
⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)		
全相手国のマッチングファンド総額 (1年間の金額)	マッチングファンドのある 相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 (1年間の金額)
0	6	0

3. 共同研究・セミナー

事業の型		A型		現在の年度に○を付けること→				
①共同研究（適宜、行を加除すること。）				1年目	2年目	3年目	A型のみ	
共同研究整理番号	共同研究課題名（和文）	相手国	1年目 実施年度に○を付ける ↓	2年目 実施年度に○を付ける ↓	3年目 実施年度に○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を付ける ↓	5年目 実施年度に○を付ける ↓	
R1	モデル組織・細胞でINS受容体/IGF-I受容体（IIR）あるいはIRSなどインスリン様シグナル伝達分子と結合しているタンパク質の変動の解析	カナダ、米国、スペイン、スウェーデン、アイルランド	○					
R2	代謝制御性栄養因子シグナル（MRNS）を介してインスリン様ペプチドとその調節因子やインスリン様シグナルの修飾因子の産生・活性発現の調節機構、およびインスリン様活性を直接発現する分子機構の解明	カナダ、米国、スペイン、スウェーデン、アイルランド、オーストラリア	○	○				
R3	モデル組織・細胞においてインスリン様シグナル伝達分子と結合しているタンパク質の機能の解析	カナダ、米国、スペイン、スウェーデン、アイルランド		○				
R4	インスリン様シグナル伝達分子と結合しているタンパク質の発現量・相互作用量の調節法の開発	カナダ、米国、スペイン、スウェーデン、アイルランド、オーストラリア		○	○	○		
R5	インスリン様シグナル伝達分子と結合しているタンパク質の発現量・相互作用量の調節を介してインスリン様活性を制御する手法の有効性の検証	カナダ、米国、スペイン、スウェーデン、アイルランド、オーストラリア				○	○	
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）								
<p>R1 神経芽細胞腫であるSH-SY5Y細胞をH<sub>2</sub>O<sub>2</sub>で処理すると細胞死が誘導されるが、その際にIRS2やIRS2結合タンパク質であるPYCR2を過剰発現すると細胞死が抑制された。さらに遺伝学的な解析を行ったところ、IRS2がPYCR2の機能を活性化して、その結果として細胞死が抑制されることを明らかにした。また前立腺癌細胞であるPC3細胞においては無血清培地で培養してもIGFシグナルが活性化されており、細胞のがん化に関与していることを示してきた。その分子機構の解明を試みたところ、IRS2が細胞外にMMP9を分泌して、MMP9がIGFの不活性化分子を分解することによってIGFシグナルの異常な活性化に寄与していることを明らかにした。</p> <p>R2 低タンパク食を給餌したラットにおいては、糖新生活性が阻害されて、インスリンの生理活性が増強していることが明らかになっている。その分子メカニズムの解明を目的に肝臓細胞を用いてシグナル解析を行ったところ、アミノ酸の一種であるオルニチンがインスリンとは独立にG6Paseの転写を調節しており、インスリン様活性が制御されていることが明らかとなった。また、低タンパク質食を給餌したラットの肝臓においては、IRS2の発現量が著増することを明らかにしている。今回、このIRS2によってVEGFの分泌が誘導され、その結果、肝細胞の繊維化が惹起される可能性を示した。</p> <p>この様にR1,R2ともに多くの研究成果が得られた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大によって国外の研究者との交流が十分に行えず、共同研究による成果は得られなかった。来年度は国外の共同研究者と交流することによってそれぞれの疾患モデル細胞を用いて上記の明らかになった分子機構を解明していく予定である。</p>								
②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）								
セミナー整理番号	セミナー名（和文）※振興会名及び本事業名を明記すること。シンボルマーク等で代用した場合、その旨コメントにて記載すること。英文も同様。	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場名）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））				
S1	研究拠点形成事業A. 先端拠点形成型 「インスリン様活性調節を介した健康維持戦略の拠点形成」およびムーンショット型農林水産研究開発事業「自然資本主義社会モデルを基盤とする次世代型食料供給産業の創出」の合同キックオフセミナー	Kick-off Symposium of "International Research on Regulation of Insulin-Like Activities for Extension of Health Life Span" & "Creation of Next-Generation Food Supply Industrial Chains for Natural Capitalism Society"	オンライン	2021年9月20日～2021年9月22日 (3日)				
S2	GRS-IGF国際会議	International Congress of the Growth Hormone Research and IGF Societies	ブラジル	中止				
S3	Gordon Research Conference (GRC)	IGF and Insulin System in Physiology and Disease	アメリカ合衆国	中止				
セミナーの開催状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）								
<p>S1: 本年度は各国の研究拠点の全機関の研究者が参加し、キックオフミーティングを2021年9月20日～22日まで開催した。約100名の研究者が参加した。拠点形成の参加者のみならず、研究代表者が代表を務めるムーンショットの共同研究者も一緒に参加した。本来であれば、日本に各国の参加者が参集して開催する予定であったが、新型コロナ感染拡大の影響でオンラインでの開催となった。オンラインであるため、チャットを利用しての質問が若手研究者から多く出され、活発に議論が行われた。オンラインの方が活発な意見交換が行われると感じられた。一方で、研究成果についてはオンラインであるため、未発表のデータはあまり発表できなかった。来年度は学会を利用して、再び参集して研究成果の共有を行いたいと考えている。</p> <p>当初計画していたS2、S3のセミナーは、COVID19感染症により本年度の実施は取り止め、令和4年度にあらためて実施する計画とした。</p>								
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7参照のこと。）								
該当なし								
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引3-4（1）①参照のこと。）								
該当なし								

4. 研究交流状況

事業の型 A 型 (本シートには、延べ人数で計算した人数を記入すること。)

①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)

国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も( )書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	

第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明  
(適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)

②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)

国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も( )書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	

第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明  
(適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)

③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (①、②の合計数の半数以下とすること。適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)

国名(派遣元)	国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も( )書きで 併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし		0	0	0	0	0	0	
計		0	0	0	0	0	0	

各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明  
※③の合計が①と②の合計の半数よりも大きくなる場合、手引2-7(3)もしくは(4)に該当するセミナー開催に伴う渡航である旨も記載すること。  
(適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)

④海外→日本の渡航数(相手国側経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)

国名(派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 該当なし	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)

国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 該当なし	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	スウェーデン
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: カロリンスカ研究所 英文: Karolinska Institute	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Oncology-Pathology・Associate Professor・Girnita Leonard
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに1行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 該当なし 英文:	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	2	2	7	0	13	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	2	2	7	0	13	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をブルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考: 日本側研究交流経費 13,500	
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
Swedish Research Council	Biasing Signaling at the IGF-1R through $\beta$ arrestins and GPCRs	0	2021/3/11	SEK	13
Swedish Cancer Society	Molecular function and targeting of beta-arrestins in cancer	0	2021/3/11	SEK	13
Swedish Childhood Cancer Foundation	Closing the gap between research and practice in childhood sarcomas	0	2021/3/11	SEK	13
合計		0			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	スペイン
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: アチュカロバスク脳神経科学センター 英文: Achucarro Basque Neuroscience Center	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Laboratory of Neurobiology of Insulin Peptides・Professor・Torres-Aleman Ignacio
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに1行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: カハール研究所 英文: Cajal Institute	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	0	2	0	0	3	
協力機関・協力研究者	0	1	4	0	0	5	
合計	1	1	6	0	0	8	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考: 日本側研究交流経費 13,500	
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
Carlos III Spanish Health Institute	Ciberned	0	2021/3/31	EUR	130
Spanish Ministry of Science	Affective plasticity: role of insulin peptides	0	2021/3/31	EUR	130
Ikerbasque	Neurobiology of insulin peptides	0	2021/3/31	EUR	130
合計		0			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	アメリカ合衆国
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: チューレン大学 英文: Tulane University	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	School of Medicine・Associate Professor・Higashi Yusuke
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに1行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 該当なし 英文:	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	3	0	0	0	5	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	3	0	0	0	5	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をブルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考: 日本側研究交流経費 13,500		
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)	
National Heart, Lung, and Blood Institute, NIH	Insulin-Like Growth Factor-1 and Atherosclerosis	0	2021/3/31	USD	109	
National Heart, Lung, and Blood Institute, NIH	GAPDH, DNA Repair and Atherosclerosis	0	2021/3/31	USD	109	
合計		0				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	カナダ
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：ウェスタン大学オンタリオ校 英文：The University of Western Ontario	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Children's Health Research Institute・Professor・Han Victor
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：該当なし 英文：	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	10	0	0	0	12	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	10	0	0	0	12	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	※参考： 日本側研究交流経費		
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
Douglas and Vivian Bocking Chair in Fetal and Newborn Growth	Endowment Funds	0	2021/3/31	CAD	86
Children's Health Foundation	Annual Grant Program	0	2021/3/31	CAD	86
Whaley Fellowship Grant	Trainee Travel Grant	0	2021/3/31	CAD	86
Division of Neonatal-Perinatal Medicine	Internal Grant Program	0	2021/3/31	CAD	86
合計		0			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。



5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	オーストラリア
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：フラインダーズ大学 英文：Flinders University	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Medical Biochemistry・Professor・Forbes Briony
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに1行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：該当なし 英文：	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	0	1	4	0	8	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	3	0	1	4	0	8	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をブルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費 13,500		
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)	
Flinders University	Unravelling insulin recetor signalling bias	0	2021/3/11	AUD	84	
Flinders University	Insulin receptor signalling	0	2021/3/11	AUD	84	
National Health and Medical Research Council	Novel chemical methods to produce next generation	0	2021/3/11	AUD	84	
合計		0				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	アイルランド
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：コーク大学 英文：University College Cork	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	School of Biochemistry and Cell Biology・Professor・O'Connor Rosemary
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：該当なし 英文：	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	3	1	4	0	9	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	1	3	1	4	0	9	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費 13,500		
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)	
Science Foundation Ireland Investigators Programme Award plus Research and PhD student travel funds	Targeting Insulin-like signaling and regulators of cellular metabolism to promote health	0	2021/3/11	EUR	130	
合計		0				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。